

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立有田工業高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で様々な取り組みにおいて変更実施を余儀なくされた。そのような中ではあったが、実施できる方法を探り、積極的な取り組みが実り、当該年度の重点目標である進路保障、学力向上について目標値を達成することができた。</li> <li>・学校独自の重点取組である地域との連携については、課題研究等を中心に、地元小中学校への陶芸交流、地域の農家の皆様との商品パッケージの開発、医師会への手作りフェイスシールドの寄贈など多くの取り組みを実施し、地域との関わり合いを深めることができた。</li> <li>・次年度は新たなプロジェクトとして、地域みらい留学プロジェクトを本格的にスタートしていく。次世代を担う人材を全国から募集し、地域の協力を得ながら、町と学校が共に活気づく基盤づくりを展開していきたい。</li> </ul>
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	勉情 「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立型人間の育成
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりのある心の醸成 進路実現に繋がる学力向上と資格取得の推進 保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育及び、働き方改革の推進
------------	------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○(学校独自重点取組) ・学習習慣の定着と基礎学力の向上	○(学校独自成果指標) ・基礎力テストの年間全体平均を7.0点以上。不合格者数昨年度比-40%。	・作問担当者、正副担任、各科との協力体制の強化。 ・不合格者の追跡調査、効果的な指導。	B	・基礎力テストの平均点は7.1点となった。しかし、不合格者数は前年度とほぼ変わらない結果となり、追跡調査を生かした、個別指導の効果は出なかった。来年度はより有効な手立てを考える必要がある。	B	・不合格の生徒を減らすには今後も継続的な指導が必要と思われる。効果的な対策を検討してください。
	○(学校独自重点取組・任意) ・資格検定取得の奨励	◎(学校独自成果指標・任意) ・ジュニアマイスター認定50名、校内表彰20名以上を目指す。	・顕彰制度、表彰制度を生徒・保護者・職員へ周知させる。 ・資格取得、コンクール参加を奨励、補習体制の充実 ・朝読書の実施、図書館便りの発行、図書館のレイアウト変更、生徒の希望に添った選書により、図書館利用を促し、資格取得、進路保障につなげる。	B	・ジュニアマイスター認定は46名であり、目標までもう少しであった。顕彰制度を生徒・保護者に対して十分周知できていなかった。 ・資格取得の補習体制については確立していた。 ・朝読書では担任の協力のもと実施し、読書の幅が広がった生徒もいる。また資格試験、就職試験に対応する図書を充実させたり、各科に関連する図書を購入したりした。貸出冊数も昨年度を300冊ほど超えた。	B	・ジュニアマイスターの制度、目標等の保護者への周知をお願いします。 ・資格取得のための受験率や合格率をより向上させるための努力を引き続き、お願いします。 ・ジュニアマイスターの取得が就職の際に有利であれば、目標達成できるのではないかと思います。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○(学校独自成果指標) ・「生命を尊重する心や献血への協力の大切さがわかった」と回答した生徒90%以上 ・ボランティア活動参加者のルーブリック評価平均3以上	・外部講師による性に関する講話及び献血セミナーを実施する。 ・年3回(各学期毎)の学校周辺清掃活動ボランティアの実施	A	・性に関する講話は対面で実施し、献血セミナーは、新型コロナウイルス感染症予防のためリモート形式で実施し、講話後のアンケートの結果、「生命を尊重する心や献血への協力の大切さがわかった」と回答した生徒が95%であった。	A	・生きていくうえで必要な内容であり、コロナ感染拡大の現状を考慮したりリモート形式で講話を実施されたいと思う。これからも続けてほしい。 ・今年度のコロナ禍での生活は予防に関しても意義のある事だと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの対応についての研修・会議を年間に1回以上行う。 ・いじめアンケートを年6回以上実施する。	A	・いじめ防止等についての組織的対応ができていると、4段階評価において3.50と教員の高い評価を得た。 ・年度当初の職員向け校内研修の実施と、アンケートについては2月中旬に6回目の実施を行った。	A	・いじめ防止対策は生徒、保護者、教職員のいずれも高評価であるため良いのではないかと。生徒にいじめをなくす意識がより浸透するよう努力して頂き、いじめゼロを目指していただきたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上	・生活状況調査の実施 ・心身の健康の保持増進に必要な情報を保健だより、食育だよりで発信する。	A	・HR、各教科、部活動等での指導により、「健康に食事は大切である」と答えた生徒は99%であり、食事の大切さを認識できている。 ・保健だより、食育だより、健康調査などが、健康の保持増進への生徒の意識向上に役立っている。	A	・アンケートでは食事は大切であると高い認識結果がでているが、生徒の実際の行動等は伴っていないのか、その確認はされているのでしょうか。 ・今後も引き続き、健康保持増進のための指導を継続していただきたい。
	○(学校独自重点取組・任意) ・運動部活動の活性化 ・体力の向上	○(学校独自成果指標・任意) ・運動部加入率49%以上 ・県ベスト4以上の実績 ・校内マラソン男子30km3時間以内70名以上、女子10km1時間30分以内60名以上	・部活動紹介、HP部活動ニュースの充実 ・体育文化奨励費運用見直し ・体育の授業で体力を高める運動の実施とマラソン練習期間の延長	A	・校内マラソン男子30km3時間以内70名以上の目標に対して57名、女子10km1時間30分以内60名以上の目標に対して57名であった。マラソン練習期間が例年通りとなったうえに、2年生は修学旅行等の行事が重なり練習時間の確保ができた。 ・野球部九州大会ベスト4(甲子園出場)	A	・運動部の加入率が上がった点については、よく努力されているのではないかと。今後も部活動活性化のためにその努力を期待したい。 ・部によっては素晴らしい成績を残しており、ますます精進してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・週1回の定時退勤日を設定し、時間外に勤務している職員への聞き取りを行う。また、全職員が年休消化日数を設定する。 ・会議資料の事前配布により時間短縮を図る。 ・職員間の意思疎通と報告・連絡・相談を徹底し、互いに助け合う環境を整える。	B	・昨年度4~1月の時間外勤務平均時間(33.6)と比較して、今年度は33.1時間となりやや減少した。職員5日以上の年休取得率は80パーセントを超え、おおむね目標を達成することができた。 ・会議の時間短縮は、会議ごとの項目別経過時間の計測を実施することで、説明時間短縮の目安となり、効率的な審議を行うことができた。	B	・年休取得率が90%に留まっている原因は何でしょうか。業務過多なのであれば業務の分担や協働体制の確立が必要なのではないでしょうか。 ・部活動指導の調整が困難でしょうか一年を見通して、休める時期に休暇を取る工夫をした方が良いでしょう。 ・今後も時間外勤務時間の短縮に取り組む努力を続けてください。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○(独自評価項目・任意)	○(学校独自重点取組・任意) ・地域と連携して高校の魅力高める取組を推進する。	○生徒自身が地域貢献を通して、意識がどのように変化したかをルーブリック評価を行うことで分かる。平均3以上を目標とする。	・情報交換会やチーム会議の充実 ・うちやま百貨店にてワークショップや展示 ・各課題研究を通じて地域貢献 ・有工ふるさとオープン検定の実施 ・有工マラソンへの支援要請	A	・有田町の各部署と連携し、課題研究班によりものづくりを通して、地域貢献することができた。特に、各科目でのコラボによる取り組みや佐賀大学有田キャンパスとも連携を取り幅広い活動を行うことができた。また、うちやま百貨店や卒業制作展でも地域の方にアピールすることができた。	A	・コロナ感染の拡大で活動には工夫が必要だったと思うが、様々な活動がされていると思う。関係者・卒業生としてとても嬉しい。 ・卒業や体育祭・文化祭などポスターで宣伝をもっとした方が良いでしょう。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も昨年度に引き続きコロナ禍の中での学校運営を余儀なくされた。しかし校務の精選や学校行事の必要性などを再認識することができ、学校全体がスリム化することで本来の教育活動を見直すきっかけとなった。また、リモート形式での講話や学校行事、授業などを充実させることができた。</li> <li>・学校独自の重点取組である地域との連携については、課題研究等を中心に、地元小中学校への陶芸交流等を充実させることができた。また、有田町との様々なコラボ等を通して、本校の魅力発信や地域との関わり合いを深めることができた。</li> <li>・今年度は新たに地域みらい留学プロジェクトが本格的にスタートした。次世代を担う人材を全国から募集し、地域の協力を得ながら、町と学校が共に活気づく基盤づくりを展開してきた。この取組みによって、地域の素晴らしさや歴史の深さを改めて認識することができた。</li> <li>・本校の特色の一つであるセラミック科のさらなる発展のために、地域や全国に向けての情報発信を工夫し、セラミック科の志願者増につなげていきたい。</li> </ul>
--------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------